

院長のひとりごと2

テーマ「長野スキーバス転落」

「長野スキーバス転落」なんと悲惨な事故でしょう。大きな落胆と憤りを覚える事件です。決して起こしてはいけない事故ですが、実際に起こっている。管理が悪かったのか、管理が良くて現場のやり方が指示通りに行われなくて起こったのか。

病院でも同じことで、職員一人一人が責任を持って、決められた通りに行わないと事故が起こり得ます。画一的にする必要はありませんが、必要最小限のマニュアルは遵守しなければなりません。バス運行会社も、現場のバス運転手も、病院職員と同じで生命を預かる職種ですから、何倍も気を張って仕事をしなければなりません。

当院の「感染対策の標語」。

1. 一人の怠慢がすべての努力を無駄にする。
2. 医療従事者は媒介者となりうるがそれを阻止することもできる。

この標語はすべての医療行為に当てはまることであり、当院では朝の全体朝礼にて隔週で病院理念とこの標語を唱和しております。

医療事故は必ず阻止せねばならず、決して怠慢や、勝手な判断で「まあー、いいか」でされては大ごとが起こります。一番迷惑が掛かるのは患者さんであり、当然周りの職員にも多大なる迷惑が掛かり、病院の存続にかかる問題に発展するかもしれません。

「人の振り見て我が振り直せ」。教訓は生かされなければならず、事故が起きないように常に管理を怠らないように一人一人が自覚をもって行動して欲しい。人の生命を預かるということは、その後のその患者さんのみならず、家族の方の人生をも含めたことであり、大変な大きな責任が伴うことです。

平成二十八年一月十八日 藤井 茂

第十二章

